

「健康食品の安全性・有効性情報」の改善点に関する研究

研究代表者 藤井 仁¹⁾

1)目白大学看護学部

研究要旨

目的： 国立健康・栄養研究所が管理している「健康食品」の安全性・有効性情報（HFNET）は¹⁾、2004 年に開設された健康食品に関する科学的な情報提供のためのホームページである。このホームページのプログラムは開設当時から大きな変更は加えられておらず、検索エンジン最適化（SEO）対策等の観点から見て必要な技術水準を満たしているとは言えない。そこで、本稿では最新の技術を反映して、「健康食品」の安全性・有効性情報（HFNET）の改善の方向性を探ることを目的とする。

方法： 2004 年当時と現在とで大きく異なる点として、①検索エンジン最適化の概念が導入されたこと、②HTML のバージョンが 5 まで刷新されたこと、③ホームページを閲覧するデバイスが多様化した、④ユーザビリティについての考え方が変化したことが挙げられる。本稿ではこれらの変化に対応してどのようにプログラムを組みなおすかを具体的に提案する。

結果： ①検索エンジン最適化対策については、OGP タグの設定の追加、見出しタグ（h1～h4）の正しい設置、②HTML5 対応についてはブロックレイアウトの採用、③ホームページを閲覧するデバイスの多様化については viewport の設定の追加、④ユーザビリティ対応についてはサイトのページ遷移の問題点の改善などによって対応することが可能だと考えられる。

結論： 本稿で提案したサイト構成をとることで、検索結果の順位が向上する可能性が高まることが予想できる。それによってユーザの視認性が向上し、HFNET の正確な情報が一般に広まりやすくなると考えられる。また、ユーザビリティの向上とアクセス数の増加が期待できる。

A. 研究目的

国立健康・栄養研究所が管理している「健康食品」の安全性・有効性情報（HFNET）は¹⁾、2004 年に開設された健康食品に関する科学的な情報提供のためのホームページであり、その情報量は極めて豊富である。しかし、その内容は科学的な厳密性を最優先にしており、主に専門家を対象とした構成になっていることから、一般的なユーザが科学的な情報を得るツールとしては難解に過ぎ、広汎な情報の普及のためには一般向けの情報を拡充する必要がある。

また、ホームページのプログラム自体も開設当時から大きな変更は加えられておらず、検索エンジン最適化（SEO）対策等の観点から見て必要な技術水準を満たしているとは言えない。そこで、

本稿では最新の技術を反映して、「健康食品」の安全性・有効性情報（HFNET）の改善の方向性を探ることを目的とする。

B. 研究方法

2004 年当時と現在とで大きく異なる点として、①検索エンジン最適化の概念が導入されたこと、②HTML のバージョンが 5 まで刷新されたこと、③ホームページを閲覧するデバイスが多様化した、④ユーザビリティについての考え方が変化したことが挙げられる。

本稿ではこれらの変化に対応してどのようにプログラムを組みなおすかを具体的に提案する。

C. 結果

①検索エンジン最適化対策

現在のホームページにおいてオーガニック検索（広告によらない一般的なユーザの検索）を増やし、検索順位を上げることは必須であるが、「健康食品」の安全性・有効性情報（HFNET）はそのためのプログラム構成ができておらず、結果として健康食品に関連した用語での検索順位も高いとは言えない。

そこで、現行のプログラムの改善点を以下に列挙する。

●OGP タグの設定の追加

```
-----  
<meta property="og:title" content="指定成分  
等含有食品って何?" />  
<meta property="og:type" content="article"  
/>  
<meta property="og:description" content="食  
品衛生法が改正され、健康被害が出た、もしくは  
出る可能性の高い健康食品が「指定成分等含有食  
品」に指定されるようになります。” />  
<meta property="og:url" content="https://"  
/>  
<meta property="og:image" content="https://"  
/>  
<meta property="og:locale" content="ja_JP"  
/>  
<meta property="og:site_name" content="「健  
康食品」の安全性・有効性情報” />  
<meta content="summary" name="twitter:card"  
/>  
<meta content="saruwakakun"  
name="twitter:site" />  
-----
```

各項目 (content=) の部分にページ内容を設定することにより、ユーザが SNS 等で該当ページを紹介する際に、正確な情報を表示させることが可能に

なる。このコードが無いと情報がランダムにでてしまいユーザが混乱する可能性がある。

●見出しタグ (h1~h4) の正しい設置

現サイトでは、見出しタグの使い方が各ページで異なる。正しく使い分けることにより、ユーザにとっても検索エンジンにとっても、情報の可読性が上がる。検索エンジンのクローラが読み取りやすいプログラムにすることで、検索順位が上がると考えられる。

②HTML5 対応

●Table タグによるレイアウトの問題

コーディングが古く、table タグでレイアウトを整えている。2004 年当時は css (Cascading Style Sheets) の利用はまだ一般的ではなく、Table タグによるレイアウトが主流だったが、現在は html5, css3 を用いたブロックレイアウトが一般的になっている。ブロックレイアウトを採用することで、スマートフォン等へ柔軟にコーディング対応でき、ブロックとして各部分をパーツ化できることから、他プログラムに組み込みやすい。

Table タグを使ったレイアウトでは、レイアウトが変わると HTML ソースが複雑になる (SEO の観点からも不利になる)、レイアウトをの変更が難しい、全コードを読み込んでから表示がされるため表示が遅い、音声ブラウザを使用した場合正しい順序で読み上げられないなどの欠点がある。

③ホームページを閲覧するデバイスの多様化

●viewport の設定の追加

```
-----  
<meta name="viewport" content="width=device-  
width, initial-scale=1">  
-----
```

スマートフォンなどのデバイスで閲覧が可能なホ

ームページをレスポンスサイトといい、レスポンス化は SEO 対策の観点からも現在のホームページには必要不可欠である。しかし、HFNET はユーザの 75% がスマートフォンで閲覧しているにもかかわらず、レスポンス化ができていない²。

Google がモバイルフレンドリーテストツールというサービスを提供しており、ここに URL を打ち込むとレスポンス化のために改善すべき点が表示される³。HFNET の URL を打ち込んで確認すると、viewport の設定がなされていないことが指摘される。

● ページ全体の左寄せを中央に

PC の画面幅が広がったことを反映して、サイト自体を中央寄せにすることが主流となっている。また、画面幅も 704px (ピクセル) から、980px 程度にし、余白を多くとり、文字が読みやすいサイト設計とすべきである。

④ ユーザビリティについての考え方の変化

● サイトのページ遷移の問題点の改善

現サイトでは、各個別ページへは別タブで表示されるようになっているが、現在他サイトへの遷移は別タブ、同サイトの遷移は同タブとする仕様が主流となっている。また、別タブに遷移すると戻るボタンで戻れず、ユーザビリティ上望ましくない動作だと考えられる。そのため、各個別ページに共通のナビゲーションをつけ、ページ遷移にストレスがかからない構成が望ましいと考えられる。

● 文章の読みやすさの変更

現在の文字サイズはかなり小さく高齢者などには読みづらい。また、モバイルフレンドリーテストツールでも、文字間隔が狭すぎると、スマートフォン等でのタップ操作に支障をきたすため、文字サイズを大きくし行間や文字間隔も調整する必要がある。

● 画面を閉じるボタンの削除

現ホームページは、ページの移動またはリンク部分をクリックした際にポップアップウィンドウが採用されているが、一部のブラウザではポップアップウィンドウがブロックされている (ポップアップブロック)。そのためユーザは一度ブロックを解除してから閲覧する必要があり、不要な操作を強いられる。

また、最近のホームページは、一つの画面でページを遷移していく (ウィンドウが次々と開かない) 物が主流となっている。そのため、ページの下にナビゲーションを付けるなどして必要な情報を見つけやすくするサイト設計が必要だと考えられる。

● 検索窓の設置

ホームページの内容をから知りたい情報が取り出しやすいよう検索窓を設置すべきだと考えられる。

D. 考察

上記のようなサイト構成をとることで、検索結果の順位が向上する可能性が高まることが予想できる。それによってユーザの視認性が向上し、HFNET の正確な情報が一般に広まりやすくなると考えられる。それによって国民の多くが利用する健康食品の適切な使用が期待できる。

資料として、上記の内容を反映した HTML コードを付記する。

E. 結論

検索エンジン最適化、HTML コードの刷新、サイトのレスポンス化などを HFNET に組み入れることで、ユーザビリティの向上とアクセス数の増加が期待できる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし

参考文献

¹ 「健康食品」の安全性・有効性情報

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/>

² similar web 社の検索結果による。

<https://www.similar-web.jp/>

³ モバイルフレンドリーテストツール

<https://support.google.com/webmasters/answer/6352293?hl=ja>